

令和元年度 学校関係者評価報告書

福島医療専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会は「平成 30 年度学校自己評価結果」に基づいて学校関係者評価を行いました。
その結果を以下の通り報告致します。

1. 開催日時・場所

日時：令和元年 9 月 1 日(日) 13 時 00 分～14 時 38 分

場所：福島医療専門学校 本部・柔整科校舎 2 階 2 年 A 教室

2. 出席委員（敬称略）

《企業等委員》

菅野 洋子 一般社団法人 福島県歯科衛生士会 監事

三瓶 直之 安積野さんぺい整骨院院長

《学内出席者》

飯島 正治 校長

木野 達司 副校長

齊藤 慎吾 教務部長

鈴木 英明 教務副部長

後藤 陽正 鍼灸科学科長

柴田 佐智子 歯科衛生士科学科長

七見 広子 日本語学科学科長

大橋 健次 事務局長

小池 一幸 教務課長

3. 委員会の概要

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 平成 30 年度学校自己評価報告
- (4) 質疑応答・意見交換
- (5) 学校関係者評価委員による評価
- (6) 評価の講評
- (7) その他
- (8) 閉会

4. 教育の目的・目標

《建学の目的》

「福寿高尚の教育」

21世紀を迎え、生きがいのある「福寿」に満ちた長寿社会の構築を目指し、「医は仁術である」という崇高な精神のもとに「高尚」の教育を推進し、医療社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成することを目的とする。

《教育目標》

- ①深い教養と諸能力を持つ人間を育てる
- ②医道に奉仕する心を持つ人間を育てる
- ③自然を敬い、生命の尊厳を重んじる人間を育てる

《教育方針》

- ①深い教養と諸能力を迫及する「創造教育」

グローバルな時代の中で、高い次元から「より深い哲学的教養を養い、文化を創造する能力」を育てる。

- ②倫理観と向き合い、人間愛にあふれた「医術教育」

医道を極めるにふさわしい臨床的技術を追求する過程において「思いやりと優しさに裏打ちされた奉仕の心」を育てる。

- ③美しいものに感動し、自然と人間のあり方を探求する「環境教育」

宇宙では、人間をはじめすべてのものは固有の生命を持ち、どれが中心ということはない。「生きとし生けるものは総て生かされている」という自然観を敬う心情を育てる。

《平成30年度重点教育目標》

体験・体感させる教育の充実と拡大
教育IT化の推進

5. 項目ごとの評価・課題・意見

※自己評価は4(適切)を最も高く、1(不適切)を最も低いものとする。

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0
2) 医療専門学校としての医療人教育がなされているか	3.8
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7
4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されている	3.8
5) 各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられている	3.6

るか	
----	--

<課題と改善方策および委員会の意見>

自習室の完備やIT化推進委員会を中心としてどこでもいつでも見ることができるオンライン教育資料の提供化をおこなっており、各自の自主性を尊重した教育環境を整備している。すでに在校生の2/3以上の学生がオンライン学習と授業での活用を実施している。

さらなるWiFi環境を整備していく。より一層の活用と利用方法の開発と教員を含めたIT教育充実が課題。

日本語学科の開設や保育園の開園による新たな人材を確保したが、その教育や法人としての方向性の確認をしつつその徹底を図っているが人材教育の時間の確保が難しい。

(2) 学校運営

評価項目	評価
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.8
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。事業計画の共通理解がなされているか	4.0
3) 運営組織や意思決定機能は、規則や校務分掌等において明確化されているか	4.0
4) 校務分掌における役割と職責が明確化され、有効に機能しているか	3.8
5) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	3.8
6) 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.8
7) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.8
8) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.8
9) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0
10) 組織内におけるパワーハラスメントやセクシャルハラスメントへの対策が図られているか	3.5

<課題と改善方策および委員会の意見>

各委員会や組織ごとの連絡会での議事録等をオンライン化しており、それぞれの長がいつでも確認できる体制は取っている。オンライン共有化を進めており、一定の効果がみられる。ただ姉妹校間の教務等に対する温度差や環境に差があり非効率な面も垣間見れる。十分にコンピューターに習熟していない職員もいるが、その教育・説明のための研修会を不定期であるが複数回開催しているが、さらに回数を増やしたい。

各種ハラスメントについては一部認識の進んでいない職員もみられるので研修会等を通して啓蒙していきたい。

(3) 教育活動

評価項目	評価
1) 教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針等が策定されているか	4.0
2) 一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間の確保がなされているか	3.6
3) 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
4) 医療人の職業教育という視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.9
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込	4.0

まれているか。	
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	4.0
8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0
10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか	3.5
11) 教育理念、教育目標の達成に向けて、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.8
12) 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどの取り組みが行われているか	3.7
13) 関連分野における先端的な知識と技能等を修得するための研修や教員の指導能力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3.5
14) 教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.5

<課題と改善方策および委員会の意見>

通常授業以外の時間を設けてはいるが、一部学生によっては学習時間の確保が出来ないため、目標に到達できていない者がいる。補講や補習などの時間は、計画をもって事前に通達し、学生が通常授業以外の講義を受講しやすい環境を作る。

入学者の学力差や資格認識に差がある。入学当初から学習習慣の徹底と資格認識の向上を行っていく。

学生の増加に伴い臨地実習施設・指導者の確保のため活動している。しかし、臨地実習に協力いただいても教育とはかけ離れた内容（従業員と同等の業務内容を課せられ全く指導がないなど）となっていることがあり、施設登録事前情報が必要である。学内外に関わらず、育てることに対する指導者の姿勢が学生の質の向上にもつながる。特に臨地実習施設においては、他施設との温度差をなくすために「臨地実習打合せ会」などへの出席をお願いする。更に学生に対する良好でない指導法が確認できた場合には、可能な限り施設に改善を求めていきたい。

本科では附属の診療室がないため、教員自身の技術の向上は本人に委ねている。しかし、学生の技術習得は、教員が示すデモからのイメージが基となっていることが多い。モニターによる画像を確認しながらの教育は現在の学生には必須であり、教員が安定した技術を維持するためにも専任教員の実践できる臨床施設が必要である。歯科衛生業務が研鑽できるように、就業条件に関する改善を提案することがベストであるが、学内においても知識と技術向上を図ることが出来るように卒後研修なども検討し、卒業生と共に教員の向上できる環境作りを目指す。また、そのためには歯科衛生士教員の安定した人員確保も必要である。

(4) 学修成果

評価項目	評価
1) 就職率の向上が図られているか	4.0
2) 国家試験合格率の向上が図られているか	3.7
3) 退学率の低減が図られているか	3.2
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.4
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.8

<課題と改善方策および委員会の意見>

退学者は進路変更や学力不足、金銭的な問題が原因である。学力不足や進路変更などによるものは低学年時にしっかりとサポート

が必要であるため、学習意欲の低下を防止する。

これまでも退学の理由として、自身の意思でなく家族等に勧められるままに入学したことをあげる学生が多かった。将来性を考え選択し入学するも、自身で職業や学習内容を調べていないため、習得内容が多いことに戸惑いその結果に伴う成績不良も退学の理由となっている。学生数の増加に伴い学生の多種多様な個性がみられる。学生の動向に関しては科内で密に情報交換または保護者にも情報提供しているが、より一層協力体制の強化を図り早めの対応を実践する。

本校入学希望者は第1に広報サイドとの接触となることから、医療職である本職の知識取得の厳しさをしっかりと伝えてもらう。

就職先の退社など連絡がつかない卒業生がいる。出口調査の徹底とリスト作成などが必要。同窓会などに協力を仰ぎ、卒業生の情報交換を円滑にする。

(5) 学生支援

評価項目	評価
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4.0
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
5) 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4.0
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4.0
7) 保護者と適切に連携しているか	4.0
8) 卒業生への支援体制はあるか	4.0
9) 学生、卒業生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.5
10) 高等学校や地域、業界団体との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4.0
11) 学生に対するパワーハラスメントやセクシャルハラスメントを防ぐ対策を講じているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

在校生においてはタブレット授業を導入して環境の整備を行っているが、卒業生においては細かく把握できていないことが問題点である。同窓会組織との情報共有により卒業生の声を集約する必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	評価
1) 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.7
2) 学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4.0
3) 防災に対する体制は整備されているか	2.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

緊急時対応マニュアルの整備がなされていない。緊急時対応マニュアルの作成、整備が急務である。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
------	----

1) 学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4.0
3) 学納金は妥当なものとなっているか	4.0

(8) 財務

評価項目	評価
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3.0
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

収入に対する人件費の割合が高い現状に伴い、昨年度と同様、計画的に削減を進めている。入学予定者増員に向けた対策として、福島県内外の高校生及び社会人に対し実施してきたイベント等の活動効果があり、次年度に向け引き続き広報活動を実施し、学生数確保に努める。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
4) 自己評価結果を公開しているか	4.0

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0
2) 学生のボランティア活動を推奨、支援しているか	3.8
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実習しているか	3.5
4) 地域や町内の行事や活動、奉仕作業への参加など、地域と学校との連携を図っているか	3.2

<課題と改善方策および委員会の意見>

特定の学生のみがボランティア活動を行っており、他の学生の参加を促す必要がある。ボランティア活動の日程など、募集や告知を出るだけ早急に行う。

学内外の活動を通して対応できる教員数が不足していた。担当者を歯科衛生士専任教員だけに限定せず、歯科医師専任教員も参加する体系を構築する。歯科衛生士専任教員が増員されたことから今後は積極的に依頼を受けたいと思う。

町内活動を把握しきれていない状態である。地域の方と交流を重ね情報を共有し、科内協議の上、対応をしていく。

限られた活動への参加となり、特定の教員や学生に一任している。まずは、地域活動の案内がある場合など、積極的に参加することを

心掛ける。

6. その他の意見

・日本語学科の開設状況と人材確保、教育状況について教えてほしい。

→留学を希望する国々へ直接出向いて募集活動を行っている。フィリピンで介護を希望する留学生には、面談をしたうえで支援をして頂く受入施設を探しているが、施設は不足している。ベトナムについてはそれぞれの都市を訪問して、学生紹介を受けている。

・第三者機関によるストレスチェックの実施内容と結果を教えてほしい。

→ストレスチェックは外部業者へ委託し、年1回実施している。設問は57問、前年度は44/52名が受診した。

・セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの相談相手として、スクールカウンセラーは導入しているか。

→スクールカウンセラーは週に1回来校している。相談内容は守秘義務があるため具体的な内容については明かされないが、ハラスメントの相談はほとんどない。学業や将来についての相談が多い。

・柔整科と鍼灸科の定員数を削減しても大丈夫なのか。

→現状では設定している定員数が入学者希望者数と離れすぎている。定員数削減とはなるが、設定する定員数は入学者数により近い数となり、定員の適正化を図ることが目的である。